



広報

なかつえ

夏の思い出は
しつかり胸の中に



夏の日射しに
灼かれた肌が
すこし色褪せていく
頬を吹き抜ける風
急に高くなつた空
夏の終わりは
何となく物哀しい

人口と世帯数
(7月末現在)

人口 1,494人(+1)
男 706人(-1)
女 788人(+2)
世帯数 484戸(+1)

94 / 8

今後の村づくりを見据えて

～山村活性化支援機構開設～

今後の村づくりの在り方、山村をいかに生き生きとした村としていくか、その基本となる山村活性化ビジョンを策定していく委員会が去る七月十四日、設立された。メンバーに選ばれたのは、野田地区の渡辺友明さんをはじめ九名。村の生き残りをかけた、地域に根差した討議が期待される。



地域主導型の山村づくりの実現を目指すために設立された本機構は、今後の村の具体的な行動計画（ビジョン）を策定していくのが当面の活動となります。

第一回目の会合となった七月の会議では、この機構の持つ意義や目的が明らかにされ、委員の委嘱が行われました。さらに八月二日の会合では、村の現状を捉えた、一歩踏み込んだ話し合いがなされました。今後年間を通してビジョンの策定にあたりますが、描いたビジョンが絵にかいたモチとならぬよう、行政をはじめとめとして本腰を入れた取り組みが望まれます。

時代に即した

作物づくり

—花き栽培講習会—

作った本人が、その値段を決めるのが経営、それ以外の誰かが勝手に値打ちを決めるのが農業、ある人がこう話してくれました。

自分で作って、販売して、その楽しさや嬉しさを実感できる、これが物を作る一番のやりがいではないでしょうか。こうした物を作る楽しさを味わえるリサーチショップが現在、福岡に三店舗あります。八月八日、このリサーチショップ向けの花の栽培講習会があり、三十人余りの参加を得て小さな面積の耕地で高収入をと、全員はりきって話に聞き入っていました。作って売る喜びを実感できる。今後の農業のキーワードでは!!

▼秋から春へむけての花の育て方について……

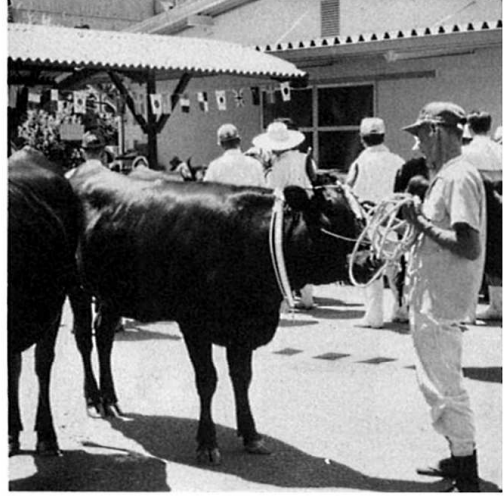


第13回 J A 津江 畜産品評会開催される

8/23



ワジワジも暑い日も暑いんよ



日射しが幾分、やわらか
くなったとはいえ、まだま
だ暑い八月の末。津江農協
の畜産センターにおいて、
十三回目の畜産品評会が行
われた。中津江・上津江よ
り出品された全二十四頭の
牛。暑いのに迷惑(?)して
いるかはさておき、厳正な
審査の上、グランドチャン
ピオンをはじめ十五頭の牛
が受賞した。中津江からは
十頭が出品され、三頭が最
優秀賞を受賞し、後日、日
田管内の大会へ出場するこ
ととなっている。

牛の生産農家は、年々減
少傾向にあり、コストの安
い外国産の肉におされ気味。
今後も質の高い豊後牛の生
産に頑張ってください。
暑い中、牛さんお疲れ様
でした。中津江の受賞者は
以下のとおりです。おめで
とうございます。

- 木弓 石川 勲さん
- 原部 川村 朝彦さん
- 丸藏 猪野 仙治さん



長年の努力がむくわれて……

豊後牛の生産で

表彰

表彰を受けたのは、合鶴
の長谷部吉武さん(七十七才)
大分市で開催された豊後牛
生産振興大会において、長
年の豊後牛生産にたずさわ
ってこられた功績が称えら
れての今回の表彰となりま
した。長谷部さんは、つい
最近まで畜産部会長も勤め
られておられたということ
で、常に第一人者として、
活躍してこられました。
これからも体力の続く限
り、牛の生産に励まれると
いうことです。いつまでも
元気に頑張ってください。



宝くじ助成により

コンピューター設置

村で活動する各種団体の
会議の記録の保存や、各集
計作業や管理、研修等を手
助けするため、中央公民館
にコンピューターの整備を
行いました。これは平成五
年の宝くじの助成を受けて
設置したもので、今後ますます
進む情報化社会に適応
できる人材を育成するため
の学習機器としても、この
活躍が期待されます。興味
のある方、気軽にさわって
みてはいかがでしょうか。



鯛生スポーツセンター 繁盛期

▼厨房は大わらわ



スポーツセンター一番のかき入れ時。夏休みに入って、スポーツ合宿の少年たちでセンターはごった返している。ラグビークラブを中心に七月・八月で五〇チーム、延べ八、七〇〇人が夏休みを利用して宿泊している。

大忙しで 大喜び!?

鯛生青少年センターの時期からずっと続けて来所しているチームなど、夏のこの時期は泥んこの子供達でいっぱい。職員はじめ、食事を賄う人も精一杯のサービスを提供しています。今後、夏のこの時期だけでなく、年間を通じて多くの人に利用されるセンターとなるよう、更なる努力が必要となるでしょう。



▶ グランドには子供たちがいっぱい

大きくはばたけ……

九州中学校陸上競技大会に出場 (砲丸投げ)

■ 津江中学校3年
井上真紀子さん



津江中学校三年生の井上真紀子さん（八所）が、八月七日、沖縄で行われた九州中学校陸上競技大会へ出場、砲丸投げで、堂々十二位と頑張りました。井上さんは、先の県大会で二位と健闘、夏休みの期間中も練習を積み、九州大会へと望んだのです。井上さんは、中学三年ですでに身長一七三センチ、我々おじさんにはうらやましい程の足の長さ、学校では他にもバレーボールの中心として活躍してきました。大会の記録に本人は満足していないものの、この経験は、きっとこれからの生活にいかされる事でしょう。

～各地区でボカシの普及はじまる

鯛生生活改善グループの代表である赤星ゆりさんは「以前、大分へ生活改善推進の関係で出かけたとき、EMの事を知り、大変素晴らしいことだと思っていました」といことで、農業改良普及所の指導でボカシづくりを体験、自宅の生ゴミ処理に利用しているそうです。小バエもつかず、特有においもないと大変気に入っている様子。赤星さんの話では、周りの人の関心も高く、ごみ処理の費用が少しでも安くなればと、今後は婦人会を通して広く村内に広がっていけばと期待を高めているようです。

また婦人会川辺支部長の松野靖子さんもボカシの有効利用に取り組んでいます。松野さんの加入している商工会婦人部では、三年前から廃油によるせっけん作りも行っており、環境問題には、大きな関心を持っているとの事です。EMについても、以前本で読んだことがあるそうで、今回婦人会での普及を試みていたとの事。川辺支部は人数も多く、住む環境にも差がある為、現在はいくつかの集落ごとにグループを作り、ボカシ作りをやっているそうで、ボカシ作りに必要な米ヌカの入手や処理した生ゴミの始末など、問題もあります。とにかくやってみようという意気込みがあります。これからも、よりよい環境づくりに頑張ってください。

さらに広がる EM菌の波

六月号の広報誌より特集しているEM菌の流れは、多方面へと拡がりを見せ、各地区の婦人会を中心に普及が始まっている。ボカシの作り方の講座や自宅に持ち帰っての活用など、EMのその後を追ってみた。



あなたのやる気を待っています!!

役場職員 採用試験のお知らせ

過疎化・高齢化の波におされ気味の村を元気にするのは、若い人の力と行動力と斬新なアイデアです。役場では、来年度採用予定(一般事務及び保母)の職員の採用試験を次のとおり実施します。学力だけではありません。やる気のある、あなたの応募を待っています。

- ① 受験資格
昭和39年4月2日から、昭和52年4月1日までに生まれた方。尚、村内外を問いませんが、採用後村内に住める方に限りません。
- ② 試験内容
第一次——教養試験
第二次——作文・面接
- ③ 試験日時
第一次——十月三十日
第二次——未定
- ④ 申込受付期限
九月一日から九月三十日
- ⑤ 申込先及び問い合わせ先
中津江村役場総務課

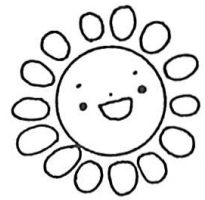
8/6 ▼久しぶりの夕立ちの日…

第15回 中津江

ミュージックフェスティバル

中津江の夏の恒例行事となった、第十五回中津江ミュージックフェスティバル。毎年、雨に気を遣う野外でのイベントですが、今年は大丈夫だろうとたかをくくっていたら、ひさしぶりの夕立ちに……

マンネリと言われつつも、今年も五百人を超える音楽好きが集合。人と人とのつながりを基調としたコンサートは、九州はもとより全国でも有名なイベントへ育っているようです。これからもぜひ、がんばって下さい。



真夏の出来事

8/3 ▼たのしい一夜…

保育園夏まつり

暑かった夏、さぞや子供たちもバテているだろうと思いきや、元気なのは夜もかわりません。保育園での夏まつりを心から楽しみにしていたようです。大好きな綿菓子やポップコーン、ヨーヨー釣りなど、今夜ばかりはお母さんに甘えていたようです。ちよっぴり暇をもて余していたのは、お父さんたち。片手にビールでもあればよかったです。

夜空に花火が輝き、楽しかった一夜は、あつという間に過ぎていきました。



ボランティアでの下草刈り作業

7/30～8/3

都市の人達に森林や林業の実態を理解してもらおうと、七月末から四泊五日の日程で、ボランティアによる下草刈り作業が行われました。グリーンパスポートという名前のもとに集まったのは、福岡から約三十名。渡神岳のふもとなどで慣れないカマを扱い、新しい生命を育てる作業に汗を流しました。来年には植林も行うというこゝとです。台風で被災した山々の実態を体感し、水資源を育む緑がいかに大切なものか、水不足の今年はより実感できた事でしょう。

▼慣れない下刈り、お疲れさま



お知らせ

九月九日は 「救急の日」

「救急の日」は救急医療及び救急の業務に対する国民の理解と認識を深めることを目的としています。

八月十九日から日田消防署大山出張所に救急車が配備されました。これにより管内における救急業務がより充実するものと思われま

す。救急車の要請は局番なしの一一九番です。
お問い合わせ
日田消防署大山出張所
(五二―二二六八)

若い力を

海外で試そう

青年海外協力隊は、国際協力事業団が主施している政府事業です。開発途上国の人々の新しい国づくりのために、あなたの可能性を試してみませんか。協力隊事務局では、平成六年度秋の募集として、農林水産か

ら教育・スポーツなど約百六十職種、一〇〇〇名を募集しています。お問い合わせは、大分県企画総室国際交流課(〇九七五―三六一―一一一)

財産管理の 法律相談

高齢化問題が現実のものとなり、関係者の方々は種々の法律的な問題を抱えています。このような人達の実情を考慮し、九州弁護士連合会は、九州圏内において電話相談及び面接による相談を企画、大分県でも無料が高齢者の財産管理に関する法律相談を行うこととなりました。

日時 九月十六日
午前十時～午後三時
電話 〇九七五―三六一―一四五八

大分県農業祭

開催

「一品のつなぐ手と手が

村おこし」をテーマに、今年も別府市で大分県農業祭が開催されます。この祭は農業・農村に対する理解を深めてもらい、生産者と消費者相互のふれあいを進めていくとともに、活力ある地域農業の実現を図る目的で開かれます。多彩な催しがありますので是非、お気軽に御参加下さい。

開催期間/10月21～23日
開催場所/別府市別府公園

利用しやすくなりました 時短奨励金

労働省では、労働時間の短縮を進めようとする中小企業事業主を支援するために、三〇〇万円以上の業務の省力化投資を行うなどの一定の要件に該当する事業主に二十五万円から三〇〇万円の時短奨励金を支給しています。詳細は、全国労働基準関係団体連合会の大分県支部(〇九七五―三四一七四三〇)へお問い合わせください。

行方不明者を捜す 相談所開設

警察では、九月中に行方不明者を捜す相談所を開設します。行方不明者の所在確認や身元不明死者の身元確認をするため、相談所を設置し、相談に応じることになっています。長期間、音信が途絶えている人などを心配されておられる方、この機会に相談所をご利用下さい。日田警察署で九月九日に実施します。詳しくは大分県警察本部鑑識課へ(〇九七五―三六一―二二二)

慶 弔

◇お誕生おめでとう
ごさいます。
栃原 諫山 翔くん
(訓洋)

鯛生 猪野愛加ちゃん
(元憲)
七月二十三日生

中川内 江田和樹くん
(健四郎)
七月三十日生
八月八日生

〈香典返し〉

梶原タチ子様……

二〇、〇〇〇円

〈見舞い返し〉

井上 幸通様……

一〇〇、〇〇〇円

〈一般〉

高本 大助様……

救急法のテープ一本

平野 一人様……

ハエタタキ十二本

北村 芙蓉様……

バスタオル他

鯛生公民館へ

〈香典返し〉

梶原タチ子様……

三〇、〇〇〇円

市ノ瀬公民館へ

〈香典返し〉

永田 康利様……

一〇、〇〇〇円

堤公民館へ

〈見舞い返し〉

栗原 貞雄様……

一五、〇〇〇円

川述公民館へ

〈見舞い返し〉

井上 幸通様……

二〇、〇〇〇円

鯛生老人クラブへ

〈香典返し〉

永田 康利様

一〇、〇〇〇円

社会福祉協議会へ

〔御寄付お礼〕

▼気持ちも新たに



平成6年度 成人式より

頑張れ！ 21世紀の主役たち

今年も、その輝く瞳に夢をのせて、平成六年度の成人式が華やかに挙行されました。すっかり定着した夏の成人式。今年はちょっと少なめの七名の新成人が出席。成人の証をあらためて受け取り、大人の仲間入りをしました。二十一世紀も目の前、その主役となっていく若者たちは、この場でどんな夢を語り合ったのでしょうか。

式には村長をはじめとする役場管理職、また壁村県議会議員の他多数の来賓を招き、八月十四日、役場の会議室で式をとりおこないました。

七人の成人者に対し、来賓等の出席者が二十四人と多少圧倒され気味でしたが、多くの激励と祝福の言葉を受け、成人としての責任と自覚を感じとったようです。成人者を代表して、なか

つえ保育園に勤めている永瀬美紀さんが「新しい時代の担い手として精進してきます。過疎の波に押されている郷土のため、少しでもお手伝いできるような努力していきます」と、その決意を語りました。

今年の成人式の対象者は十四人。横浜、千葉など住むところも違えば、職業も様々。しかし、これからの村づくりに必要なものは、若い人の力やアイデアです。是非、郷土でその力を発揮してほしいものです。

◆ 恩師と共に 記念写真



▶ 思い出に
ひたりながら



つれづれ

戦後、もっとも暑かった夏がようやく終わろうとしている。こんなに暑く、雨の少ない夏は多分、有史以来はじめてのことではなからうか。

そして、はつと気がつく。と八月も残りわずか。まだ原稿は、一枚も書けていない。まあ、暑かったし、色々といイベントもあったからと言いつつを考へてはみる。が、言いつつの数ほどペンが進まない。時間は容赦なく進み、気は焦るばかり。ふと、学校のころの夏休みの宿題を思い出していた。休みが始まったころは、何日までに宿題をやってしまった、後は思いきり遊ぶぞなどと考えているのに、結局は残り何日かで泣かされる目にあっていた。

あの頃からその癖はいっこうに直っていないようである。などとボヤいている内にまた時間が……皆さんは、どんな夏を過ごされたでしょうか。遅れましたが、残暑お見舞い申し上げます。